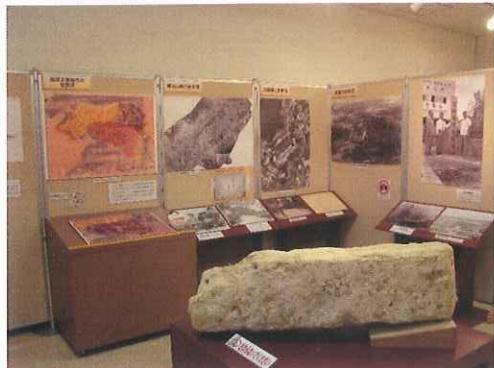


# はくぶつかんネット 第46号

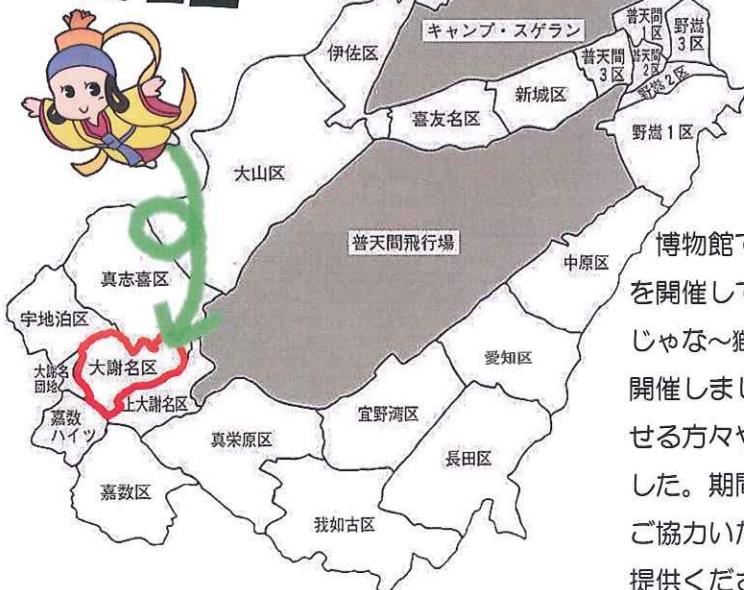
平成24年度

1~3月号

宜野湾市立博物館発行



## 大謝名区



あざ  
ぎのわんの字展

## おおじやな

～獅子按司加那志が護るムラ～

博物館では、毎年2月に宜野湾市内の字を紹介する「ぎのわんの字展」を開催しています。6回目となる今回は、「大謝名区」を取り上げ、「おおじやな～獅子按司加那志が護るムラ～」(平成25年2月6日～3月3日)を開催しました。たくさんの来場者が訪れ、展示をみながら昔話に花を咲かせる方々や、昔の大謝名の様子に興味津々の子ども達の姿が多くみられました。期間中1,076名の方にご来場いただき、とても嬉しく思います。ご協力いただいた大謝名区自治会、大謝名獅子舞保存会、貴重な資料をご提供くださいましたみなさん、本当にありがとうございました。

大謝名は、「おおじやな」「じゃな」と言い、古くは真志喜・大山を含めて「ぢゃな」と呼ばれていました。<sup>うふや</sup>奥間大親と天女の間に生まれたとされ、後に中山王となる察度が王位に即位する前に居住していたと伝わるクガンナー（黄金庭）や、日本商船と交易を行ったと伝わる場所があるなど、察度とゆかりのある場所が残っています。また、1671年に首里王府によって宜野湾間切が新設されるまでは浦添間切に属し、間切新設に伴って大謝名村・大山村（謝名具志川村）・真志喜村の3カ村に分かれました。

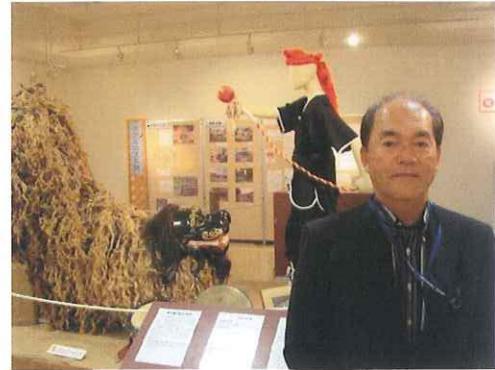


# インタビュー

ぎのわんの“字”展「おおじゅな～獅子按司加那志が護るムラ～」について、大謝名区自治会長の天久盛忠さんにインタビューをしました♪

## 博物館で“字”展を行う事について…

地域の歴史や文化を、外部に向けて披露する機会があまりないので、このような機会を設けてもらえたことに感謝しています。また、展示を博物館だけで行うのではなく、移動展として公民館で行うこともとても良いと感じました。最近では、行事や伝統芸能がマンネリ化してきている部分もあり、こういった展示会をきっかけに、大謝名の伝統文化の良さを再認識し、さらに地域が活性化する起爆剤になればと思います。



大謝名区自治会長 天久 盛忠さん

## 大謝名区のアピールポイントを教えてください！

毎年旧暦8月の十五夜に行われる豊年祭と、そこで披露される獅子舞ですね。とくに最近の獅子舞は、人にみせるために派手な動作が多くなってきています。しかし大謝名の獅子舞は、派手な動作はありませんが、四方に二回、中央で一回吠えるという昔ながらの踊りを守っているウガン(拌み)獅子で、これが獅子舞本来の姿なんだと感じさせてくれます。

## オープニングセレモニー

展示会初日の2月6日、博物館でオープニングセレモニーが開かれました。セレモニーには、大謝名区やその他の地域から多くの方が訪れ、大謝名幼稚園（さくら組）のみなさんが大謝名に伝わったわらべ歌を披露するなど、大盛り上がりの中、展示会がスタートしました。

**ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました！**



歌ってみて…  
はじめはむずかしかったけれど、たのしかったです！

くら組さんに  
インタビュー♪

展示を見て…  
うごいているししまいはコワイけど、とまっているししまいはカワイかったです！

# あざ きのわんの “字” 展 をふりかえって♪

今回の字展「おおじゅな～獅子按司加那志が護るムラ～」の展示のメインはなんといっても、大謝名の獅子舞でした。ここで大謝名の獅子舞についてご紹介します。



大謝名の獅子舞

## ◆8月十五夜に踊る獅子舞

大謝名の獅子舞は、「イキガシーシ（男獅子）、けんかシーシ」と呼ばれ、毎年旧暦8月の十五夜の豊年祭に大謝名区公民館広場で、「シーシケーラシ」と呼ばれる獅子舞の奉納演舞が行われています。当日、豊年祭の前に大謝名獅子舞保存会と同区自治会長が、獅子舞とワクヤー（獅子の誘導役）と一緒に「ムラマーイ」といって区内の道筋を回ります。ムラマーイの途中、2ヵ所の十字路で獅子が踊ります。ワクヤーが獅子を誘い出し、獅子は四方と中央で噛みつく動作をします。大謝名の獅子舞は、宜野湾市の指定文化財です。

市立博物館に寄託された  
戦後、初代獅子

## ◆戦後復活した獅子

本企画展で展示した獅子は、戦後、1976（昭和51）年に復活した際のものです。獅子頭の材質はデイゴ、頭髪は人の髪の毛、胴体部分には芭蕉が使われています。大謝名の獅子は、33年毎に作り替えるのが習わしとされていることから、33年目にあたる2009（平成21）年に獅子を新調し、現在は戦後2代目の獅子が大謝名を護っています。新調した獅子の材料は、頭部が初代獅子と同じデイゴの木が使われていますが、胴体部分にはマニラ麻が使われています。

戦後、初代獅子は、33年もの間、大謝名を護っていました。その役目を終えた獅子は、この字展を機会に大謝名獅子舞保存会から当館へ寄託されました。博物館では、末永く獅子を大切に保管していきたいと思います。

## 「チーアイシ」で力くらべ！

今回の展示会では大謝名の「チーアイシ」を展示しました。「チーアイシ」とは力石のこと、他の地域では「差し石」とも呼ばれています。このチーアイシは重さが136斤（約81.6kg）あり、青年達は、仕事を終えて夕飯を食べてから集まり、チーアイシを持ち上げて力比べをしていました。

戦前の大謝名で、頭上に持ち上げることができたのは、10人位しかいませんでした。博物館の男性職員も、運搬に一苦労でした。



## 大謝名の怖い話 ヒーダマ見物！！

戦前の大謝名では、夜になると畑や田んぼが広がるカトウラバル港田原に「ヒーダマ」（火の玉）が見えたそうです。ヒーダマは、一つ見えたかと思うと二つ三つと数が増えたり、消えたかと思うと田んぼの真ん中にあらわれたり、さらに軽便鉄道の線路を行ったり来たりするなど、さまざまな動きを見せました。子ども達は怖いもの見たさで見物しましたが、近くに現れるとびっくりしてクモの子を散らすように逃げたといいます。

しかし、田んぼの広がる風景が住宅地へと姿を変え、夜もすっかり明るくなった現在では、ヒーダマもあらわれなくなってしまいました…



博物館にて、大謝名区の名所旧跡を巡る地図や、写真、解説が入った冊子を用意しています。



# 平成24年度 博物館市民講座

今年度も、宜野湾の歴史や文化に興味を持った多くの方が市民講座に参加してくださいました。本当にありがとうございます。主に宜野湾市に関する講座を、1年間で9回行いました。地域の歴史や文化を知ることで、多くの方に地元への理解を深めていただけたのではないかと思います。また、市内だけではなく市外から多くの方が参加してくださいました。

これからも楽しみながら学んでいける市民講座を目指したいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。



## 6月「壕めぐり」

講師：新垣 義夫（宜野湾市立博物館協議会 会長）



沖縄戦中に住民が避難した市内の洞窟を巡りました。普天満宮洞穴を見学した後に、普天間基地内にある、かつて新城住民が避難したアラグスクガーを訪れました。湧水が流れる狭い洞窟に実際に入り、当時の避難生活の様子を体験しました。

## 7月「宜野湾の50年」

講師：仲村 元惟（宜野湾市史編集委員会 委員長）



夏の特別展「宜野湾 50th」の関連講座を行いました。仲村先生は、戦後、軍作業に関わりながら生活した住民の様子を紹介してくださいました。先生の実体験を交えたお話を、受講生は興味深く聴いていました。

## 8月「街の移り変わり」

講師：平敷 兼哉（宜野湾市立博物館 学芸係長）



夏の特別展関連講座第2弾です。徒歩とマイクロバスで普天間や国道330号沿いの店々等を巡りながら、50～60年前と現在の街の移り変わりの様子を解説しました。受講生は現在の建物や通りの様子と、昔の同所の写真を熱心に見比べていました！

## 9月「地形と地名」

講師：崎浜 靖（沖縄国際大学 准教授）



地形の特徴が由来となっている地名の場所を巡りました。嘉数高台公園や愛知、長田を巡見したほか、宜野湾と神山の境にある河川“シリガーラ”的谷底地形を埋め立ててつくった“いこいの市民パーク”等も巡りました。受講生は特徴ある地域に実際にいく事が出来て、楽しめたようです。

## 10月「軽便鉄道跡と沿線の史跡めぐり」

講師：知念 勇（沖縄考古学会 会長）



大正時代から沖縄戦直前まで通っていた沖縄県営軽便鉄道嘉手納線の跡を巡りました。鉄道が通っていた橋や駅の跡の他に、沿線にある嘉手納の野國総監の墓などの史跡にも行きました。受講生は、軽便鉄道の跡や史跡が身近な所にあることに驚いていました。

## 11月「ぎのわんの“お墓”を訪ねる」

講師：呉屋 義勝（宜野湾市教育委員会 文化課長）  
森田 直哉（宜野湾市教育委員会文化課 文化財保護係長）



市内にあるお墓を巡りました。真志喜中学校裏の崖面にあるグスク又ハナ古墓群や、王族の墓と言われる本部御殿墓等を訪りました。普段なかなか聞くことが出来ないお墓の歴史の話を、受講生は感慨深い様子で聞いていました。

## 12月「古酒づくり」

講師：島袋 正敏（山原島酒之会）



古酒の歴史やつくり方を紹介しました。島袋先生は沖縄の古酒が世界的にも特異な文化であると紹介し、継承していくことの大切さを語りました。質疑応答では、多くの受講生が古酒のつくり方について質問をしました！

## 1月「ぎのわんの苗字」

講師：武智 方寛（宜野湾市立博物館 嘴託職員）



明治時代に沖縄の苗字が生まれた経緯や、苗字が歩んだ歴史を紹介しました。また、宜野湾市で多い苗字や、地名と苗字の関係についても説明しました。受講生はこの講座を通して、身近にある苗字への理解を深めることができたようです。

## 2月「めぐてい！イガルーシマ～大謝名編～」

講師：平敷 兼哉（宜野湾市立博物館 学芸係長）



大謝名区に残る文化財と察度王ゆかりの地を徒歩で巡りました。また、昔の写真や地図を見て、大謝名区の変化の様子を学びました。1つの字に多くの文化財が残っていることや、旧施設跡地、通りの変化に受講生は驚いている様子でした！

# 社会科見学＆出前講座



※大謝名小学校のみなさんから、  
お花のプランターをいただきました！

博物館では、小学校の社会科見学の際、昔の道具に実際に触れながら楽しく学んでもらおうと、「昔の道具体験」を行っています。見学するだけではイメージしにくい昔のくらしも、実際に当時の人人が着ていたものや、使っていた農具を見たり、直接触れて体験することで、より楽しくイメージしやすい学習内容になっています。

また、博物館に行きたいけど団体で行くための移動手段がない、時間的に無理があるという学校のために、博物館職員が直接学校まで出向いて体験学習を行う、「出前講座」(注：市内の学校対象)も行っています。

今年度は、市内外合わせて12校の学校が来館し、出前講座も市内5校の小学校で行うことができました。

今後も、博物館は学校と連携を図り、子ども達が楽しく学べるお手伝いをしていきたいと思いますので、次年度多くの学校のご利用をお待ちしています。ただし、事前の打ち合わせが必要になりますので、お早めにご相談下さい。



## とも 博物館友の会

### ■平成24年度の活動内容

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| ①友の会定期総会(4月14日)       | ⑥「ぎのわんのお墓」展示解説(11月24日) |
| ②第1回サークル活動(6月30日)     | ⑦第2回サークル活動(11月24日)     |
| ③「宜野湾50th」展示解説(8月11日) | ⑧第3回サークル活動(12月22日)     |
| ④「地名展」展示解説(台風により中止)   | ⑨新年会(1月26日)            |
| ⑤博物館スポット解説(10月20日)    | ⑩「ぎのわんの“字”展」展示解説(3月2日) |



サークル活動の様子



展示解説会の様子

「市立博物館友の会」は、博物館が行う活動の支援を通して、宜野湾市の歴史や文化を学びながら、会員相互の親睦を深めることを目的とした会です。結成2年目になる平成24年度は、各展示解説会に加えて新たに「サークル活動」を始めました。

サークル活動は展示解説会や講座とは違って、会員同士で年間を通して1つのテーマについての疑問点を挙げ、その疑問を解決する方法を探るなど自主的に学習する活動がメインとなっており、今年度は「軽便鉄道」をテーマにサークル活動を行いました。

結成2年目を迎え、友の会会員は81人(2013年3月現在)となっています。友の会会員は年齢性別、市内外問わず宜野湾市立博物館が好き、宜野湾の歴史文化に興味がある!という方ならどなたでも入会できます。皆さんのご参加、お待ちしております!



「市立博物館友の会」について詳しくは、博物館HPまたは博物館まで!



# 24年度を振り返って



館長：比嘉 悅子

2012(平成24)年は宣野湾市誕生から50年の節目にあたり、市では50周年を記念する様々なイベントが開催されました。博物館でも夏の特別展として「宣野湾50th」(7/25~8/26)を開催しましたところ、沢山の参観者が来館して宣野湾市の成り立ち、歴史を学び、50年前のなつかしい写真やパネル、展示物に昔を思い起こしている様子でした。夏休みを利用して訪れた子ども達には「昔のおもちゃコーナー」が人気で、フラフープやパッチャーに興じる姿が印象的でした。

その他、9回開催された市民講座、わらば一体験じゅくも好評で、それぞれに意義ある学びであったという感想を頂きました。また、23年度から始めた、市内の小学校を対象とした出前講座の申し出も多く、出前講座や団体見学の後に家族と連れだって来館してくれるリピーターも増えました。これからも市民に親しまれる博物館として頑張っていきますので、皆さまのご支援・ご協力をお願い致します。

## 25年度はまずはこれから！《予告》

### 新収蔵品展 ～平成23・24年度受入れ資料～



入館無料

▼海邦国体グッズ



平成23~24年度に、市民の方々から寄贈・寄託して頂いた資料を展示します。この展示を通して、博物館の活動（収集・保管・展示公開）について知っていただき、また資料を寄贈して頂いた市民の方々に感謝の意を示すと共に、今後も資料提供を呼びかける機会になればと思っております。

5月22日(水)～6月9日(日)

■場所／宣野湾市立博物館 企画展示室

■時間／9:00～17:00

(入館は16:30まで)

■休館日／毎週火曜日



▲ソーミナーク  
(鳥かご)



▲生活道具

▲印部石

**25年度の企画展・講座は、4月中にご案内します。乞う!ご期待!**

■開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）

\*文化の日、慰霊の日（6月23日）は開館

\*火曜日と祝日が重なった場合、翌日の水曜日も休館、その他くん蒸による臨時休館あり

## 宣野湾市立博物館

ホームページ

宣野湾市立博物館

〒901-2224

宣野湾市真志喜1-25-1

TEL(098)870-9317 FAX(098)870-9316



24年度も、多くの市民の方々に博物館をご利用いただき、ありがとうございました。

25年度も、宣野湾市立博物館をどうぞよろしくお願ひいたします。

